



双塔

カトリック新潟教会

2016年6月
No. 337

この絵はなんですか？

主任司祭 ラウル・バラデス

皆さんはお気づきになったと思います。今年の復活節の間「お知らせ」に毎週、同じイラストを貼りつけていました。その理由は「この十字架はどういう意味ですか」と誰かが聞いて来るのを待っていたのです。残念ながら二人の方からしか質問はありませんでした。しかも一人は他の教会からおいでになった方でした。結果、皆さんの好奇心を起こすことに失敗してしまいました。

しかし、この十字架は私にとって大きな発見でしたのでそれを皆さんと分かち合いたいと思います。

この絵はカトリックと東方教会のビザンチン典礼の美術によく使われているそうです。十字架に「モノグラム」と呼ばれる文字との組み合わせでできた絵です。IC・XCとは、イエス・キリストの略字で、NIKAは勝利という意味のギリシャ語です。「イエスは十字架をとおして勝利者となりました」という救いの神秘を表しています。この世の誘い、罪、苦しみ、肉、悪魔、死に対して主・イエスキリストはすでに勝利を得られました。ヨハネの福音書にこう記されています。

「あなた方は世にあつて苦しむ。しかし、勇気を出しなさい。わたしはすでに世に打ち勝ったのである」(ヨハ20:33)しかし、その勝利は主イエスご自身のためではなく、私たちのためなのです。

「神から生まれた者はみな世に勝ちます。そして、世に勝つこの勝利とは、わたしたちの信仰です。イエスを神の子と信じる者のほか、誰が世に打ち勝つでしょう」(一ヨハ5:5)

私たちをキリストと結びつけるこの信仰こそは私たちの勝利となっています。信仰をとおして、キリストの体の一部になったからです。キリストとともにこの世の誘いをのり越えることができるようになりました。しかし、私たちはその偉大な力、無限の可能性を意識しないまま、自分たちの力と努力だけで生きようとしています。レース用の車、例えば、フェラーリの助手席に乗るようになると招かれたのに自転車で行く人があるのでしょうか。人間ってなんと愚かな存在だと考えさせられます。

結局、キリストの勝利は信仰をとおして一人一人の勝利となります。このことを思い起こすように感謝の祭儀に参加し、聖体拝領します。偶然ではなくビザンチン典礼のミサに使われるパン(ラテン典礼でいえばホスチア)に、この十字架を刻印している教会があります。信者はキリストの体を頂くときにキリストの勝利に預かることになります。

キリストの勝利	ご聖体	キリスト者の勝利

右の絵に自分のイニシアルを書いてみたらいかがでしょうか。

「これらのことを書いたのは、神の子の名を信じているあなた方が永遠の命を有していることを、あなた方に悟らせるためです。」(一ヨハ5:13)

聖霊降臨の主日 5月15日(日) 特別聖年・巡礼・信徒交流

風薫る5月。『聖霊降臨祭ミサ』が菊地司教様、ロレンゾ神父様（長岡教会）、千原神父様（山形教会）、ラウル神父様の共同司式で捧げられた。

特別聖年の期間中、「いつくしみの扉」の教会を巡礼し、ミサに与って聖体拝領、教皇様意向の祈り、ゆるしの秘跡を果たすことで全免償が与えられるため、市内の教会をはじめ長岡、新発田、糸魚川、高田、新庄教会などから160名を超す信徒が集まった。特に海外出身の信徒に声掛けが行われたことで、たくさんのフィリッピン出身者の姿が見られた。

朗読は日本語と英語で行われ、福音朗読後に司教様は「信仰は共同体の中で生きられるもので、私たちは共同体なしに信仰を深めることはできない」、また「教会には外に向かって派遣するという役割が教会共同体には不可欠である」と日本語に続いて英語で話された。聖体拝領後に『新潟教区100周年宣教宣言』を全員で唱えて福音宣教への決意を新たにし、司教様から私たちが宣教者として派遣されていくために祝福の祈りが捧げられミサが終わった。

ミサ後には日本語と、英語をはじめタガログ語、スペイン語に対応した“ゆるしの秘跡”が行われ、告解室前には海外出身の信徒が並んだ。

また、ミサ後には司教館の中庭に造られたオープンカフェで交流会が行われた。3つのテントにドリンクバーやフードコーナーが設けられ、美味しい手作りフードの差入れも。千原神父様のギター伴奏による歌やロレンゾ神父様のギター弾き語りなどで笑顔がいっぱい♪ 最後はみんなで輪になってタガログ語の主の祈りを唱えながら踊り、楽しい交流が行われた爽やかな一日であった。新潟教区の信徒が心一つにして派遣され、神様の言葉と愛を伝えていくことができますように。

準備して下さったみなさん、ありがとうございました！

